

令和2年7月8日

保護者様

仙台市立長町中学校
校長 今野 隆

新型コロナウイルス感染症への学校の対応評価結果について【記録の配布】

小暑の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、すでにお知らせしておりましたが、6月30日（火）に別紙のとおり学校の感染症予防対策について評価を行いましたのでご報告いたします。

特に東北医科薬科大学 特任教授の賀来満夫先生からは、長町中学校では、感染症予防上、非常に大切なことを生徒・保護者の皆様、教職員が一丸となって取り組んでいることを高く評価していただきました。「感染症」に対応していくためには、個人を超えてみんなで協力して取り組むこと、感染症に対してネガティブな思いを抱きがちだが、保護者の皆様が一緒に乗り越えようとしている姿が子どもたちにむしろプラスの影響を与えている（＝ピンチをチャンスに変えている）ことが素晴らしいとお褒めの言葉をいただきました。学校生活の中で三密を回避することや消毒等について専門的なご指導もいただきましたので、今後も感染予防に活かしてまいります。保護者の皆様におかれましては何とぞご理解とご協力をお願いいたします。

記

1 新型コロナウイルス感染症予防対策検討会 会議記録 1部

【担当】

仙台市立長町中学校
教頭 松本宏子・坂本 茂
248-1444

新型コロナウイルス感染症予防対策検討会 会議記録

- 1 日時 令和2年6月30日(火) 8:00~10:00
- 2 場所 仙台市立長町中学校 校長室・昇降口・教室・特別教室・体育館等
- 3 指導助言者
 - (1) 東北医科薬科大学 医学部 感染症学教室 特任教授 賀来 満夫氏
 - (2) 東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座 総合感染症学分野 助教 吉田 眞紀子氏
- 4 目的
 - (1) 長町中学校の新型コロナウイルス感染症予防対策についての妥当性を確認する。
 - (2) 今後の新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じた感染予防対策について見通しを持って教育活動にあたる。
- 5 内容
 - (1) 高く評価されたこと (◎)

項目	指導助言内容
①感染症予防の意識について	◎感染症対策で最も大切なことは、(個人を超えて)感染予防にみんなで協力して取り組めるかどうかである。長町中学校の取組では、生徒・教職員・保護者がみんなで感染症を予防していく意識を高く持っていることが素晴らしいこと。 ◎(新型コロナウイルス感染症の流行について)この100年に1回の出来事は、生徒に対してコロナに限らずみんなで感染症に対する意識を上げるチャンスでもあり、長町中の実践はチャンスに変えられること。 ◎検温はかり隊やウイルスバスターなど保護者の姿を生徒が見て学ぶことは、ピンチをチャンスに変えられること。
②手洗い場	◎ハンドソープがこれほど数多く設置している学校はなかなかないため、しっかり環境が整っていること。
③換気	◎廊下の扇風機は窓側(外)に向けて空気を循環させるなど、薬剤師から指導を受けながら実施していることが素晴らしいこと。

- (2) 現状維持でよいこと (○)

項目	指導助言内容
①登校時・検温チェック	○昇降口前で解錠されるまでの生徒が、生徒間の距離(1m)を維持し、会話をしないで並んで待機していること。 ○検温チェックで37℃以上の生徒が、そのまま保健室に行ける動線、早退者(発熱者)は保健室とは別室(技術室)で保護者の迎えを待つこと。
②教室内での生活	○生徒同士で話さないよう指導するのは難しいため、話してもその分ソーシャルディスタンスを1m以上は取るように指導を継続すること。 ○教室が狭いため、密接になるのは仕方ないが、かなり空気が循環しているので、密閉にはなっていないこと。
③換気	○夏にエアコン、冬に暖房を使用した場合は、常時、廊下のドアを5~10cm、窓も対角線上に5~10cm開けておくこと。さらに30分に1回はフ

	<p>ルオープンにすること。</p> <p>○教室の出入り口のドアや窓がオープンになっており、教室内に生徒が密集しているものかなり空気が循環しているので密閉にはなっていないこと。この状況であればマスクの着用のみでシールドまで不要であること。</p>
--	--

(3) 課題・改善が必要なこと (●)

項目	指導助言内容
①手洗い	<p>●水道で手洗い後、綺麗になった手で、蛇口をしめると蛇口に付いたウイルスが手に付着すること【重要な課題】。</p> <p>【改善策】→手洗い後、手で水をすくって<u>蛇口に水をかけて、蛇口についたウイルスを流して</u>から蛇口をしめるとよい。</p>
②トイレ	<p>●トイレ内の手洗い場を使用する生徒もいるので、<u>ハンドソープ</u>を手洗い場に設置したほうがよいこと。</p>
③机と椅子の消毒について	<p>●机の天板・椅子の座面の消毒だけでは不足している。生徒の机（特別教室も同様）は<u>両サイドの内側（天板の左右の下側＝生徒が机を持つところ）と椅子の背板の後ろのパイプ</u>もよく手が触れるところであり、消毒が必要になること（教職員や保護者のボランティアの方々にも実践していただいております）。</p>
④給食指導	<p>●給食当番（配膳している）の生徒は、<u>プラスチックの薄い手袋</u>を付けて配膳した方がよいこと。</p>

(4) 指導助言（今後の対応について）

- ①生徒の指導には、視覚化（見える化）することは効果がある。蛇口に水をかけてウイルスを流す写真を掲示したり、ウイルスマーク（イラスト）を蛇口やドアノブに付けておく等するとよいこと。
- ②①と同様に机や椅子の写真を撮って盲点となる箇所にマークを付けるなどウイルスが付きやすいところを「見える化」するとよいこと。
- ③トイレの出入り口のドアがオープンになっていればよいが、手で開け閉めすることが感染リスクになる。トイレ内では、一番感染リスクが高いのはドアノブ、二番目は蛇口であること。
- ④教室よりもトイレの感染リスクが高いため、トイレの消毒に次亜塩素酸ナトリウムが適していること。
- ⑤今後、生徒による清掃も始まるが、机・椅子・教室内の消毒は次亜塩素酸ナトリウムではなく、食器用洗剤やマイペット、リセッシュも効果があると言われている。500mlの水にキャップ1杯の食器用洗剤を入れて拭くだけで効果がある（二度拭きしなくてよい）こと。東北医科薬科大学のホームページに家庭用ハンドブック第2版に掲載されているので参考にしてほしいこと。
- ⑥生徒は感染症を予防する行動を学ぶことで、個人だけではなく、公共の物を使用する際の意識も変わってくること。
- ⑦「感染症」と聞くと人はネガティブになってしまう。みんなで乗り越える思いを持ち、みんなで協力できるかどうかが社会に求められていること。